

SHIRAKOBATO

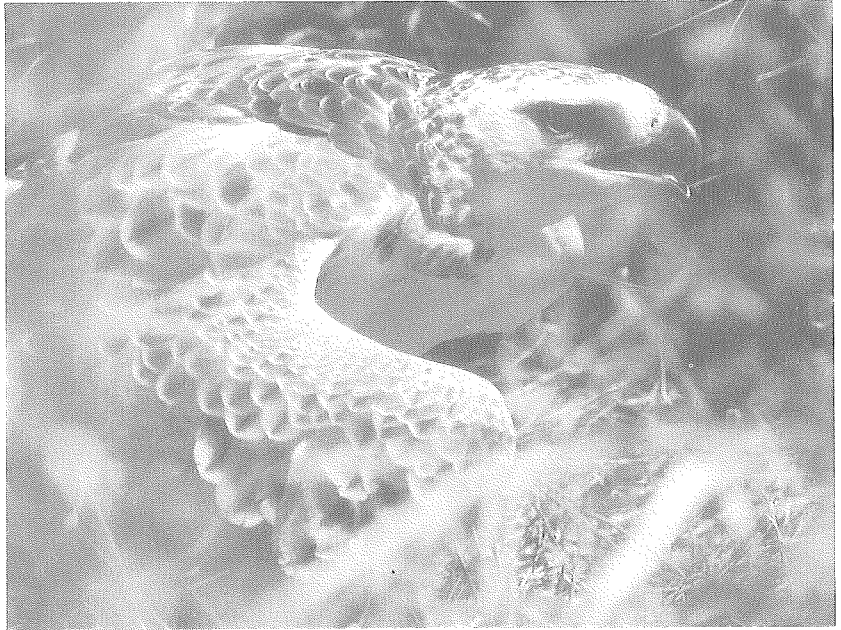
# 白鳩



1996. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 143

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 三番瀬 FOREVER

東京湾の最も奥、市川から船橋の沖に広がる「三番瀬」は、現在埋め立ての危機に瀕しています。スズガモをはじめとする水鳥の日本有数の渡来地を次代に残していくためにも、今、思いっきり楽しんでください。

## ○冬の三番瀬

ある探鳥会での話

「望遠鏡にコクガンが入りました。」

参加者の行列が急に色めき立って、他の望遠鏡も一斉に同じ方角を向く。時々あがる歓声の中で平静さを装いながらフィールドガイドで解説をするが、内心気が気ではない。実はコクガンを見るのは僕も初めてなのだから。探鳥会のリーダーをやりながら一種増えてしまうとは、何と虫のいい話だろう。

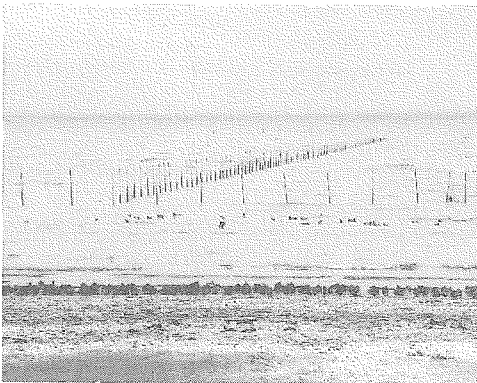
ここは冬の三番瀬です。

時々やって来る珍鳥もうれしいけど、参加者にどうしても見て欲しいものがあります。それはゴマンというスズガモの群れ（本当に5万羽以上いる！）と、その生活の場となっている海です。

三番瀬とは千葉県の上野市市行徳から船橋市の海浜公園の沖にかけて約1200haにわたって広がっている干潟、浅瀬のことです。

日本全国に渡来するスズガモは約35万羽がカウントされていますが、そのうち東京湾には約12万羽、三番瀬には約5万羽が集まります。つまり1200haほどの海域に全国の7分の1のスズガモが集中していることとなります。

スズガモの群れが次々に飛び立っていく様



子は、まるで竜が飛ぶようで、冬の三番瀬の風物詩です。ボサボサ頭のウミアイサや、人生の4分の3を潜って暮らしているようなホオジロガモなどが、この群れに混じっています。今の季節は目の後ろに黄色の飾り羽が出たハジロカイツブリ、ほおひげをはやしたカンムリカイツブリの群れが見られます。

市川側からですとカモ類の群れに近く、午後には順光になるので見やすいでしょう。

## ○三番瀬の四季

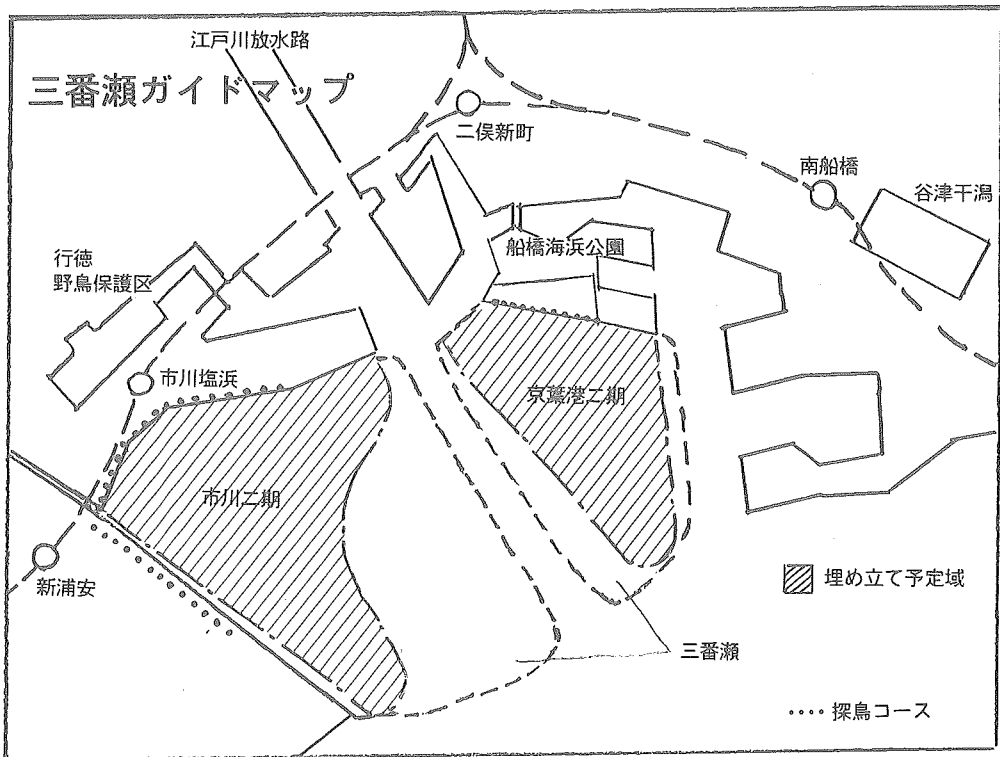
カモたちが北へ去った後、今度は南からシギ、チドリがやって来ます。彼らは潮の干満に合わせて谷津干潟とこの三番瀬を往復しながら餌を採っています。栄養を十分に蓄えたとさらに北へと旅立って行きます。シギ類は干潟の出る船橋海浜公園が見やすいでしょう。ただし人出が多いので、午前中のほうが落ち着いて見られます。

春の大潮の干潮に浅瀬をバシャバシャと歩き回ってみると、実に多くの生き物に満ちていることに気がつきます。産卵のために泳いでいるゴカイと風船のようなその卵。ウミホオズキと呼ばれているアカニシの卵。素足にたかってくるアラムシロガイやノソノソと歩き回るヤドカリの大群など。

防波堤にいて素早く逃げるフナムシを海に落とすと器用に泳ぐので、遊び相手には事欠きません。イソガニは挟まれると結構痛いのでつかまえるのにスリルがあります。彼らもみんな生きているんですね。

半日ほど海で遊んでいると、何だか自分もシギになったような気がしてきます。

同じ頃アジサシ類も大挙して渡ってきます。海苔ひびの竹の上に一本につき一羽の割りですらりと並んでいるのは壮観です。たまにハジロクロハラアジサシなどが混じることがあ



ります。昨年はカラシラサギも見られました。

コアシサシは東京湾の埋め立て地で繁殖していて、夏の間ずっと見られます。レッドデータブックでは稀少種とされているにもかかわらず、日本最大の繁殖地が幕張メッセの臨時駐車場というのが悲しい現実です。

やがてウミネコがワンサと押しかけて来ると、季節は夏の終わり、シギ・チドリの帰省ラッシュが始まっています。

## ○海の畑

生活排水が流れ込む東京湾は死んだ海と思われがちです。ところがどっこい、三番瀬では周年、漁業が行われていて、冬は養殖の海苔が育ち、夏は潮干狩りで賑わいます。丹念に手入れされた海域を地元の漁師さんは「海の畑」と呼んでいます。

水に含まれている大量の有機物はプランクトンの餌となって吸収され、そのプランクトンを餌として魚介類が生育します。東京湾のアサリはよく育つといわれるゆえんです。

また、海水中のリンやチッ素は葦や海草類、海苔の養分として吸収されます。

埋め立てした後には浄水場などが計画されているようですが、三番瀬の浄化しているだけの有機物を人工的に取り除こうとすると、どれほどの設備と費用がかかるでしょうか。一度計算してみたいと思います。

自然はそれを請求書ではなく、恵みとして私たちに返してくれます。第一次産業をあまりにも軽視し過ぎた結果、人間は自然の恩恵に対して鈍感になっているようです。そろそろ三番瀬に足を向けて寝られなくなってきませんか。

三番瀬で遊び、鳥を見て楽しみ、残った思い出の分だけ、この貴重な自然を守っていく力となってくれることでしょうか。

(杉本秀樹)

## 〈交通〉

◎船橋海浜公園へは

J R船橋駅または京成船橋駅からバスで約30分

J R二俣新町からバスで約5分  
徒歩だと 約30分

海浜公園に駐車場があります

◎J R京葉線市川塩浜駅から徒歩5分

# 野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

## ■リスト記載順の番号訂正

本誌昨年10月号でシロハラクイナとコシジロアジサシの記録について、290番目と291番目と掲載されたが、それぞれ291番目と292番目の誤りであることを確認した。

(ただし、この番号は「埼玉県内鳥類リスト」に入れることにした年月の順番を示すだけ。リストの中では鳥類目録の順番に掲載するので、別の番号になる。次のセジロタヒバリとシロカモメも同様。)

## ■新たな記録

### 1, セジロタヒバリ

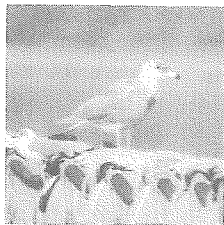
1995年10月7日、彩湖(通称:道満の貯水池)の東岸、和光市下新倉地内の管理道路沿いのヨモギ群落から飛び立ったのを有山智樹と駒崎政雄両会員が発見。少し濁り気味のピウピウ、あるいはピヅィピヅィ、ピヅィピヅィとも聞こえる声で鳴き、潜行性が極めて強い。ヨモギの藪の中から出てくることはなく、草の根元を目立たぬように歩き、茎や葉につく小さな虫を盛んに捕食していた。有山会員が撮影。翌々9日が終認。



その写真からだけでは同定は困難だが、写真から認められる範囲の特徴と細かな観察記録を合わせて勘案し、リストに記録することとした。スズメ目セキレイ科。国内ではごくまれな旅鳥として少数の記録がある。(県内リスト293番目の記録)

### 2, シロカモメ

1996年1月2日、戸田市内の彩湖(同前)で駒崎政雄会員が発見し、有山智樹会員が翌日撮影した。

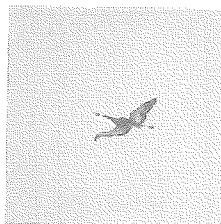


チドリ目カモメ科。初列風切の先端が白。北海道や東北地方の海岸や港では良く見られるが、関東以西では少ない。(県内リスト294番目の記録)

## ■希少記録と参考記録

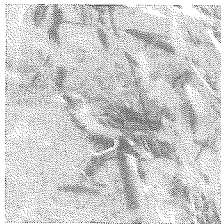
### 1, マナヅル

1995年11月26日、川越市内の入間川雁見橋上空を飛んでいるところを勝山竹司会員が撮影。過去県内では、江戸時代の記録と1984年3月浦和市大久保農耕地に滞在した記録があるだけ。



### 2, チャキンチョウ

1995年10月22日、大宮市深作で菊川和男会員が撮影した。チャキンチョウ(Red-headed Bunting)はアジア中央部に分布し、国内での自然分布はまだ記録されていない。ペットとして輸入もされているので、この個体もいわゆる籠抜けではないかと思われる。



3, ビロードキンクロ

1995年11月22日、戸田市内の彩湖で、高橋達也会員が♀1羽を観察した。1975年12月に浦和市内で観察された記録はあるが、今回は写真などの客観的資料は得られなかった。

## ■鳥種名(和名)について

ヨーロッパトウネン:日本鳥学会発行「日本鳥類目録第5版」(1974年)発表当時は国内未発見。その後国内初発見者がヨーロッパトウネンと命名した。

サバンナシトド:同目録では、観察報告はあるがまだ正式に目録の中には含めないリストのなかに、この名前で開催されている。

山階芳麿著「世界鳥類和名辞典」(1986年)などでは、それぞれニシトウネン、クサチヒメドリとされているが、支部記録委員会としては、現在発行準備中の鳥学会目録第6版に準拠するのが無理がないと考える。

(1978年4月から1996年1月までの埼玉県内鳥類リストに基づくチェックリストは、近日中に発行される予定です。)

# 地鳴きコーナー

タゲリを見つけました

松永匡子 (富士見市)

春も目の前ですね。あまり探鳥会に参加しない会員です。昨年11月柳瀬川探鳥会に参加してタゲリを知り、カラー名鑑『日本の野鳥』で見て、間近に見たいと望んでいました。

富士見市の高齢大学に新河岸川土手を歩いて通う途中、鳴き声にハッと、ぶらさげていた双眼鏡でミツケました。2羽……。

その後新河岸川と江川の合流点でも2羽。

それらはいつも同じところにいます。別な所でも1羽ずつ見かけましたが、羽がありますものね。1日おきくらいにタゲリちゃんを見に通っています。夜、柳瀬川みんなの所に帰るのかしら？

タゲリを探していると、ツグミに出会います。タシギも見つけ、カモも数種類覚ええました。セグロカモメではないかしら、2羽ミーッケ。ユリカモメでは絶対ありません。また探鳥会でお世話になります。

## 1995年秋 埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部 研究部

調査当日、40余名もの会員の皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。

(執筆 小荷田行男)

1995年10月1日(日)、サシバを中心とするタカの渡り調査が行われました。9月27日から晴天が続く、当日も移動性高気圧におおわれ、県北部は曇りがちでしたが、南部は晴れとなりました。

表1 調査地・調査時間など

| 調査地  | 市町村名     | 調査者       | 調査日・時間          | 天気 |
|------|----------|-----------|-----------------|----|
| 鐘撞堂山 | 寄居町      | 菱沼一充 他12名 | 10/1 8:00~13:00 | 曇  |
| 堂平山  | 都幾川村     | 小荷田行男 他7名 | 10/1 8:45~12:53 | 薄曇 |
| 物見山  | 東松山市・鳩山町 | 榎本秀和 他11名 | 10/1 8:50~12:00 | 晴  |
| 天覧山  | 飯能市      | 佐久間博文他10名 | 10/1 8:30~13:00 | 晴  |

### 調査結果

本年は、県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境界付近、JR八高線の周辺に、北から南まで4ヵ所の調査地(表1)を設定し、実施しました。4日前から晴天が続いたためか、例年(表3)よりも幾分少ない結果(表2)となりました。

表2 1995年秋のタカの渡り調査結果

| 調査地  | ハクマ | トビ | オカカ  | ツミ | ハクカ | ノリ | サシバ | ハヤブサ | チョウゲンボウ | 合計     |
|------|-----|----|------|----|-----|----|-----|------|---------|--------|
| 鐘撞堂山 | 2   | 1  | (3)  | 1  | 0   | 1  | 0   | 0    | 0       | 5(3)   |
| 堂平山  | 0   | 3  | 1    | 0  | 0   | 1  | 0   | 0    | 1       | 6      |
| 物見山  | 0   | 1  | 1    | 0  | 0   | 1  | 57  | 3    | 0       | 63     |
| 天覧山  | 0   | 0  | 2    | 0  | 1   | 1  | 84  | 0    | 0       | 88     |
| 合計   | 2   | 5  | 4(3) | 1  | 1   | 4  | 141 | 3    | 1       | 162(3) |

注：( )内は、渡りではないと思われる個体数

表3 各年のタカの渡り本調査日におけるサシバの数

| 年    | 月/日   | 天気  | 金鑽神社 | 鐘撞堂山          | 堂平山 | 物見山          | 白金平      | 高指山 | 天覧山 | 堀の内 | 浦和見沼 |
|------|-------|-----|------|---------------|-----|--------------|----------|-----|-----|-----|------|
| 1986 | 10/5  | 晴   | -    | (9/23 31) 6   | -   | -            | -        | 52  | -   | -   | -    |
| 1987 | 10/4  | 快晴  | -    | (9/23 31) 4   | -   | 28           | (10/3 6) | 149 | -   | -   | -    |
| 1988 | 10/2  | 曇   | -    | (10/1 150) 10 | -   | 19           | 0        | 1   | -   | -   | -    |
| 1989 | 10/1  | 晴   | -    | (9/23 105) 25 | -   | 100          | 14       | 79  | 150 | -   | -    |
| 1990 | 10/10 | 快晴  | 1    | (9/23 19)     | -   | -            | -        | -   | 2   | -   | -    |
| 1991 | 9/29  | 晴後曇 | 13   | 34            | -   | 29           | -        | 21  | 151 | -   | -    |
| 1992 | 9/27  | 快晴  | 7    | 21            | 6   | 10           | -        | -   | 31  | 17  | -    |
| 1993 | 9/26  | 快晴  | -    | 19            | 45  | 3            | -        | -   | 73  | 0   | -    |
| 1994 | 9/25  | 晴後曇 | -    | 15            | 0   | (10/2 122) 0 | -        | -   | 30  | -   | -    |
| 1995 | 10/1  | 晴   | -    | 0             | 0   | 57           | -        | -   | 84  | -   | 14   |

注1：1990年は、本調査日が悪天候のため、10/10のデータを示した。

注2：( )内は、各年における最大値とその観察日を示す。

注3：見沼は、指定調査地以外の会員からの情報による。

JIZZに対してMicro-Method

トリの見方、識別方法にもいろいろあります。2月号では、「黙って座ればびたりと当たる」式の英語 General Impression and Shape (全体的な印象と形)が、頭文字から G. I. S. または JIZZ (ジーズ) に変化したとのお話をしましたが、JIZZは、「ぱっと見て、一目で当てる」という点で非科学的であり、納得できないという人たちがいます。JIZZ派に対して、Micro-Method派というグループです。

Micro とは、マイクロまたはミクロ。微小な、非常に細かい、顕微鏡的な、という意味を持ち、そのように細部にまでわたって観察をします。双眼鏡ばかりに頼らず、天体望遠

鏡まで持ち出して、翼長はもちろん、初列風切の枚数、尾羽の枚数などまで詳細に観察した上で、このトリは、〇〇目〇〇科〇〇属の〇〇である、という方式です。

JIZZ派といい、Micro-Method派といい、両者それぞれのメリットがあり、どちらがより良いとは言いきれませんが、さらに昔、初期の頃の最も的確で迅速だったのは、Shotgun Method。すなわち、ズドンと鉄砲で撃ち落して、「ウン、これは尾羽が20枚だからチュウジシギだ」という同定が、ごく普通にアメリカあたりでは行われていたとのことでした。これは昔々の話です。

(松井昭吾)



- カンムリカイツブリ ◇12月23日、戸田市の彩湖で78羽。昨年よりもかなり数が増える。昨年同時期24羽 (森永徳一)。
- カワウ ◇12月30日、熊谷市大麻生の荒川上空を2群、約300羽の大編隊で飛んでいた (黒木昭雄、増尾隆・節子)。
- ゴイサギ ◇12月23日 戸田市の彩湖で1羽 (森永徳一)。◇1月25日午後6時頃、浦和市上野田の野田小学校上空で3羽。暗くなった空を鳴きながら見沼方向へ飛ぶ (藤原寛治)。
- ダイサギ ◇12月23日、戸田市の彩湖で1羽 (森永徳一)。◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽 (森秀夫他2名)。
- チュウサギ ◇12月26日、志木市の柳瀬川高橋～栄橋間で1羽。水辺近くの叢に佇む (中司隆由)。
- アオサギ ◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽 (森秀夫他2名)。
- オシドリ ◇1月14日、名栗村の名栗湖有馬ダムで♂2羽♀1羽 (黒木昭雄、増尾隆・節子)。
- トモエガモ ◇1月3日、滑川町の森林公園山田大沼で♂2羽。マガモの群れから離れ、入江の奥にポツンといた (中村豊己)。

- ヨシガモ ◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川で♂1羽。3列風切がきれいでした (森秀夫他2名)。
- アカハジロ ◇1月15日午後1時半頃、浦和市の白幡沼で♂1羽。グラウンドよりのアシの根元から沼の中ほどまで出てきた。ホシハジロ数羽の群れと行動していた。17日の朝は確認できず (青山恭之)。◇1月28日、大宮市の大宮第2公園と大和田緑地公園の間の芝川で♂1羽。潜水を繰り返して餌を採っていました。左脚に金属製の足環の様なものが認められました (浅見徹)。
- スズガモ ◇12月23日、戸田市の彩湖で1羽 (森永徳一)。◇1月20日、入間川、田嶋屋の堰で♀2羽。キンクロハジロやホシハジロと一緒にいました (石井幸男)。
- ツミ ◇1月14日午前10時頃、鶴ヶ島市鯨井新田の雑木林で1羽。倉庫横の金網のフェンス越しに、私たちから約2mの所でスズメラしき餌を捕獲し、地上70cm位の低空で飛び去るのを目撃、感動した (前島利夫・春子)。
- ノスリ ◇12月30日、熊谷市大麻生の荒川の川原で1羽。木にとまっていた。意外とやさしい顔つきでした。(黒木昭雄、増尾隆・節子)。
- ハヤブサ ◇12月23日、戸田市の彩湖で2羽。上空より田島ヶ原方向へ飛ぶ (森永徳一)。

チョウゲンボウ ◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽（森秀夫他2名）。

ウズラ ◇1月7日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で。草むらを歩いている時、すぐ左から急に飛び立ち、前を横切られてびっくり。続いてもう1羽同じ場所から前方へ飛び出し、2度びっくりしました（森秀夫他2名）。

オオバン ◇12月31日、戸田市の道満公園で1羽（陶山和良）。◇1月6日、蓮田市貝塚付近で1羽（石川敏男）。

タゲリ ◇1月2日、戸田市の道満公園、野球場の芝生で11羽（陶山和良）。◇1月3日、東松山市大谷の長登呂沼付近の畑地で1羽（中村豊己）。

ハマシギ ◇12月31日、蓮田市根金の元荒川で37羽。1ヶ所に集まって採餌していた（玉井正晴）。

セグロカモメ ◇12月26日、志木市の柳瀬川高橋～栄橋間のユリカモメの群れる浅瀬で3羽。内1羽は幼鳥（中司隆由）。◇1月2日、戸田市の彩湖で若鳥1羽（陶山和良）。◇1月17日、浦和市の白幡沼で垂成鳥1羽。上空南側から沼に入ってきて、時おり水面にダイビングして、またすぐ飛び立つ行動を繰り返していた（青山恭之）。

コミズク ◇1月7日午後2時頃、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽。河川敷を1m～5m位の高さで悠々と飛び回り、肉眼でもハッキリわかるぐらいそばを何回か飛びました（森秀夫他2名）。◇1月7日、戸田市の彩湖南端近くで1羽（森秀夫他2名）。

ヒメアマツバメ ◇12月29日、坂戸市城山で上空で2羽（増尾隆）。◇1月19日、JR

笠幡駅上空で約30羽。入間市役所で営巣している個体だと思います。（石井幸男）。

カワセミ ◇1月2日、戸田市の彩湖で1羽（陶山和良）。◇1月15日、春日部市の増田新田の自宅北側の荒地の中を貫流する用水路（最近降雨がなくて水流消失。残った水がよどんでドブ川状態の所）で1羽目撃（石川敏男）。

アオゲラ ◇1月15日、毛呂山町旭台の雑木林で♂1羽（増尾隆・節子）。

ハクセキレイ ◇11月17日、川越市の伊佐沼で顔の黄色い個体1羽（中司隆由）。

ルリビタキ ◇1月17日、滑川町の森林公園後谷沼西側で♂1羽。沼の脇の低い枝と篠やぶとの間を行き来している。上面の目の覚めるような青色と脇の黄色とのコントラストがいつまでも印象に残る（中村豊己）。◇1月25日、滑川町の森林公園、運動広場南側の林内で♂1羽、♀1羽。赤松と雑木とが混じった林のやぶの上の枝にしばらく♂の姿。その数分後にほぼ同じ場所に♀が来る（中村豊己）。◇1月28日、東松山市の岩殿観音の山道で♀1羽。息をはずませながら登る急坂で先導役を務めてくれた。感謝（中村豊己）。◇1月28日、東松山市の物見山山頂の西側斜面で♀1羽（中村豊己）。

トラツグミ ◇1月6日、滑川町の森林公園山田大沼南側の林内で1羽。枯れ葉の降り積もった山道を歩いていると、いきなり足元から飛び立ち、少し離れた倒木の上にとまった。三日月斑と丸い大きな目が印象的でした（中村豊己）。

アカハラ ◇1月2日、蓮田市江ヶ崎の雑木林で♂1羽。ツグミ2羽とともにとまっていた（玉井正晴）。

### 表紙の写真募集中!!

今月号の表紙の写真は、清瀬市の吉本富美子さん。昨年12月、アフリカのケニアで、チュウヒワシ（Short-toed Eagle）と思われるワシが、翼を広げ、獲物のノガンを隠しているところです。

身近な野鳥から海外の野鳥まで、幅広く表紙の写真を募集します。コメントが不得意な人は、簡単な説明だけでもOK。詳しくは、2月号をご覧ください。

# 行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 寄居町 鐘撞堂山探鳥会

期日：3月9日(土)

集合：午前9時10分 秩父鉄道寄居駅北口

交通：秩父鉄道熊谷8:26発、またはお花畑8:23発、東武東上線川越7:40発(小川町乗継)にて寄居駅下車

担当：田口、小池(一)、林(滋)

解散：12時頃、鐘撞堂山山頂にて

見どころ：日ごとに春らしさを増している野山、のんびりと山歩きはいかがですか。運がよければ、あかい鳥、あおい鳥が出迎えてくれるかもしれません。

## 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池探鳥会

期日：3月9日(土)

集合：午前9時45分 久喜菖蒲公園駐車場

交通：JR宇都宮線白岡駅西口よりタクシー利用で約10分。バス等の便がありません。

担当：中島(康)、松井、林(慎)、五十嵐、入山、玉井、内田

見どころ：ズバリ！トモエガモです。少なくともったとはいえ、毎年20~40羽のトモエガモが飛来します。数千羽の中から探し出す楽しみは格別ですヨ。

## 龍谷市 大麻生定例探鳥会

期日：3月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：森本、小池、田口、和田、石井(博)、中島(章)

見どころ：季節は春。まだまだ調子が出ないウグイスのさえずりも聞こえます。コハクチョウも北に帰る頃。待っててくれたらお別れに行きましょう。

## 大宮市 染谷見沼自然公園探鳥会

期日：3月10日(日)

集合：午前8時30分 JR大宮駅東口 こりすのトトちゃん像前、集合後バスで現地へ、または午前9時20分、さぎ山記念公園駐車場

担当：工藤、新堂、楠見、高松、兼元、森、浅見(徹)

見どころ：どこかで芽の出る音がする。どこかで春が生まれてる。見沼田圃の3月ヒバリが鳴いて……。見沼の一番早い春をさがしに来ませんか。

## 川越市 西川越探鳥会

期日：3月10日(日)

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR川越線大宮8:36発、川越乗継8:55発に乗車

担当：佐久間、長谷部、石井(幸)、三田、小野、山本、藤掛、中村(祐)

見どころ：さあ！暖かくなってきましたよ。寒がりの人でも炬燵から外にでて、小鳥達に負けずに活動しよう。カワセミや小さな花が貴方を待っていますよ。



### 長瀨町 宝登山探鳥会

期日：3月17日（日）  
集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀨駅前  
交通：秩父鉄道熊谷8:23→寄居8:52→長瀨9:10着、またはお花畑9:01→長瀨9:27着、西武鉄道所沢7:42発で上記に接続  
担当：小池、佐久間、町田、林（滋）、青山、岡野、井上、新井、堀  
見どころ：桜のつばみに群れるウソ、山道で出会うルリビタキ、ベニマシコ、マヒワがお目当て。ひと足先に色とりどりの秩父の春を訪ねてみませんか。

### 浦和市 三室地区定例探鳥会

期日：3月17日（日）  
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後バスで現地へ）または午前9時 浦和市立郷土博物館前  
後援：浦和市立郷土博物館  
担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森  
見どころ：シロハラ、アカハラが出たっけ、昨年の春。雨あがりの野道の水たまりに小鳥たちの水あび。モモ、レンギョウ、モクレンで花盛りの三室です。

### 秩父市 羊山公園探鳥会

期日：3月20日（水・祝）  
集合：午前9時45分 秩父鉄道西武秩父駅前  
交通：秩父鉄道熊谷8:23に乘車、お花畑下車、徒歩5分で西武秩父駅前に。または西武鉄道所沢8:05発快速急行に乘車して9:25着。現地集合は、公園の入口近くの大駐車場  
解散：正午頃、羊山公園にて  
担当：海老原、福井、佐久間、小池、井上  
見どころ：赤・青・黄色の小鳥たち……当たりはずれの多い探鳥地。今年はどうかな？ 当たった時はリーダーのおかげ。はずれた時は誰かのせい。杉花粉対策を十分にしてください。

### 栃木県 日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月23日（土）  
集合：午前9時30分 東武日光駅前  
交通：東武伊勢崎線春日部7:44発（快速）、東武日光行に乘車。日光9:15着  
解散：現地にて午後2時頃  
担当：中島（康）、松井、福井、桜庭  
見どころ：神橋の前から東照宮裏山を滝尾神社まで歩きます。ルリビタキ、ミソサザイ、カワガラスなどが見られるかも。アフターは東照宮見物も結構ですね。

### 狭山市 八間川定例探鳥会

期日：3月24日（日）  
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:45発に乘車  
担当：長谷部、三田、石井（幸）、高草木、小野、山本、藤掛、中村（祐）  
見どころ：耳を澄まし、遠くを見つめ草や土の匂いをかいでみよう。普段眠っていた体の中の野生が目ざめ、たくさんの春が見つかりますよ。

### 行田市 さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月24日（日）  
集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前レストハウス  
交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス、行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乘車、「産業道路」下車 徒歩約15分  
担当：内藤、岡安、榎本、石井（博）、和田、吉原、立岩、関口  
見どころ：4月の初旬には桜花の山となる古墳もまだ静か。北への旅立をひかえた冬鳥は採餌に大繁忙。そんな季節の変わり目に何が出てくれるかな？

### 『しらこぼと』袋つめの会

とき：3月30日（土）午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局108号室

◆行事案内は12頁にも掲載しています。

# 行事報告

12月3日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 38人 天気: 晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ  
オナガガモ タゲリ イソシギ タシギ ユリカ  
モメ セグロカモメ シラコバト キジバト カ  
ワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ  
タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ  
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ  
アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) ヘルシ  
ーロードコースを歩いた。風が強かったが、お目  
当てのシラコバトやジョウビタキを、初めての方  
にもユリカモメやタシギを、じっくり見てもらえ  
た。また、タゲリやカワセミを見たラッキーな方  
も…。それにしても寒かったー。(伊藤芳晴)

12月9日(土) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 28人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ  
カルガモ コガモ ハシビロガモ チョウゲンボ  
ウ タゲリ イソシギ タシギ キジバト カワ  
セミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ  
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ シジュウ  
カラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ  
シブトガラス (31種) 市野川橋を渡って川ぞいの  
コースを取る。大沼の手前ではチョウゲンボウが  
大サービスで、リーダーもちょっと興奮ぎみ。大  
沼は、土地改良工事のせいでもないだろうが、水  
位が1m以上下がってカモも少ない。吉見百穴周  
辺探鳥会、10年目はかくて終わる。(榎本秀和)

12月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 44人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ  
オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ イカル  
チドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセ  
ミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ

セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジ  
ョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ  
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジ  
ユリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ  
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41  
種) 明戸コースを歩く。前月少なかったツグミな  
ども多くなっていた。コハクチョウを見るのに明  
戸堰の上流まで足をのばしたら、カワセミが出る  
し、気になる声の主を探してたらベニマシコ♀だ  
ったし、猛禽こそ出なかったが満足。(森本國夫)

12月10日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 47人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ  
ブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コ  
ガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ  
トビ オオタカ キジバト コゲラ キセキレイ  
ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒ  
バリ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シ  
ロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウ  
カラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ  
シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス (38種) 最近狭山湖のカモ類  
が非常に少なくなっているの、森の小鳥を探そ  
うと、玉湖神社の下へ行ってみたが、空振り。狭  
山湖もカモは6種しかおらず、下見で見られたホ  
オジロガモもいなかった。しかし、カンムリカ  
イツブリとハジロカイツブリを近くでしっかり観察  
できた。風もなく、遠くでオオタカが舞っており  
のんびりとした探鳥会だった。(三田長久)

12月17日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 48人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ  
モ コガモ ヨシガモ オナガガモ ホシハジロ  
キンクロハジロ オオタカ ノスリ キジバト  
コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
レイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ  
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ

ヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス  
 ス ハシブトガラス (31種) ひさしぶりに山田大  
 沼までのコースで探鳥。カラ類の混群がしきりに  
 出現して進めず、リーダーはやきもき。何故か小  
 鳥たちが少ない。でも中央橋の処で、オオタカ、  
 ノスリが続いて舞い、気分爽快。山田大沼では、  
 ヨシガモを全員が堪能。カワウが増えて大沼の岸  
 辺の木々20本ほどが真っ白なのはびっくり。フ  
 ン公害にならねば……。 (内藤義雄)

12月17日(日) 浦和市 三室地区  
 参加: 60人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ  
 ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ  
 コジュケイ キジ バン ハマシギ タカブシギ  
 イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト ヒバ  
 リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス  
 シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワ  
 ラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシ  
 ボソガラス ハシブトガラス (37種) 快晴の見沼  
 たんぼでゆっくりと鳥見をしました。芝川の堤を  
 歩きながら、ユリカモメの飛ぶのを見ました。今  
 年は、新しい参加者が多かった三室の探鳥会で  
 したが、親切リボンが非常に好評でした。来年も支  
 部の探鳥会の原点として、参加者で作る探鳥会に  
 したいものです。 (楠見邦博)

12月23日(土) 『しらこぼと』袋つめの会  
 ボランティア: 15人

荒木恒夫、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、  
 大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、篠原東彦、  
 中村 治、中村榮男、長谷部謙二、藤掛保司、藤  
 野富代、谷津弘子、渡辺喜八郎

1月3日(水) 浦和市 さぎ山記念公園  
 参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カル  
 ガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンク  
 ロハジロ キジ タゲリ キジバト コゲラ ハ  
 クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ  
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ  
 ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ  
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガ  
 ラス ハシブトガラス (32種) 松井支部長の新年  
 の挨拶の後に出発。メジロの声に迎えられ、ツグ

ミの群れ、ホオジロの声に送られた。田圃ではタ  
 ゲリ、川や池ではカモ類に初顔合わせ。皆の顔も  
 ニッコニコ。終了後、恒例の野外大パーティー。  
 中島普及部長のお汁粉の差し入れもあり、大いに  
 盛り上がった。後半は歌も出て、和やかな中にも  
 華やかに新年の初顔合わせを終了。(櫻庭 勇)

1月7日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園  
 参加: 54人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ  
 モ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシピロ  
 ガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ノス  
 リ コジュケイ キジバト コゲラ キセキレイ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨ  
 ドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウ  
 グイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジ  
 ロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ ス  
 ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシ  
 ブトガラス (39種) 11月から毎月実施してきたが、  
 今月が最も鳥影も濃く、多くの種が見られた。多  
 くの鳥が観察できることはうれしいが、参加者の  
 多くがじっくり見られたと思う探鳥会がそれ以上  
 に良いと思う。今回は、近くの木でじっとしてい  
 るノスリを全員で見ることができた。森林公園ら  
 しい探鳥会であったと思う。(内藤義雄)

1月14日(日) 熊谷市 大麻生  
 参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
 ギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ  
 オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ キジ  
 バン イカルチドリ クサシギ イソシギ ユリ  
 カモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ  
 ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ  
 ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ  
 スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ  
 シブトガラス (44種) 新年の探鳥会は、今年を占  
 う意味からも、リーダーは気合いが(内心)入っ  
 ている。で、その首尾はというと、普段あまりお  
 目にかからないオナガの数十羽の群れに遭遇し、  
 明戸堰ではユリカモメの優雅な姿を見られた。さ  
 らに、上空をヒメアマツバメが数羽滑空するお年  
 玉まで付いてきた。今年もすばらしい探鳥会が保  
 証されたようなもの?ですね。(小池一男)

— はみ出し行事案内 ◆9ページからの続き◆ —

|  |  |
|--|--|
| <p>■春日部市・内牧公園探鳥会</p> <p>期日：3月31日（日）</p> <p>集合：午前8時15分東武伊勢崎線春日部駅西口東武バス1番バス停前。集合後「東光園經由エミナス行き」8:28発に乗車、東光園下車。または、午前9時15分内牧アスレチック公園前駐車場。</p> <p>担当：吉安、篠原（東）、入山、橋口、中村（栄）</p> | <p>見どころ：ここで3月の探鳥会は初めて。常連のカラ類やメジロ・カケスに加え、アカゲラ・キクイタダキが出てくれれば最高!! 雑木林や屋敷林でじっくり観察します。ぜひお出かけください。</p> <p>◆4月7日（日）北本市石戸宿定例探鳥会</p> <p>◆4月7日（日）浦和市民家園周辺探鳥会（ヘルシーロードコース）</p> |
|--|--|

**連 絡 帳**

●関東ブロック協議会に参加  
 関東地区9支部の代表が集まる関東ブロック協議会。第18回の今年は茨城県支部が主催して1月20日（土）と21日（日）の2日間、土浦市内を主な会場に開催され、埼玉県支部からは、松井昭吾支部長と海老原美夫副支部長が参加しました。

あいにくの雪に見まわれた第1日は、土浦市内の穴塚大池を視察、ここをサンクチュアリとして保全することを県や市に要望するアピールを雪の中で採択。夜の会議では、江戸崎町のオオヒシクイ越冬地を保護することを国や県に対して要望する件について協議し、茨城県支部の原案が了承されました。

第2日はオオヒシクイ越冬地の視察をして日程終了。21日の読売新聞朝刊茨城県版には穴塚大池に関するアピールが早速記事として掲載されるなど、実りの多い会議でした。

●自然学習センター写真展  
 1月14日（日）から31日（水）まで、北本市の埼玉県自然学習センターで野鳥写真展が開催されました。当支部は依頼を受けて写真パネルを貸し出し、更に、岡安征也・新堂克浩・内藤義雄の3幹事が、会場での解説係として協力しました。

●狭山湖でも普及活動  
 1月28日（日）、所沢市狭山湖では、あさひ銀ユニオンクレジット主催の探鳥会が開催され、約30名の参加者に対し、当支部から派

遣した海老原美夫副支部長と工藤洋三・新堂克浩・福井恒人・三田長久・吉安一彦の5幹事が指導に当たりました。

- 3月の事務局 土曜と日曜の予定
- 2日（土） 研究部会
  - 16日（土） 編集会議
  - 23日（土） 校正作業
  - 30日（土） 袋づめの会（1時から）

●会員数は  
 2月1日現在2,733人です。

**活 動 報 告**

- 1月13日 野鳥記録委員会（小林みどり委員長ほか3委員出席）。
- 1月15日 関プロ会議資料作成（事務局）。
- 1月15日 役員会議（司会：石川敏男、探鳥会指導依頼への対応・その他）。
- 1月18日 2月号校正作業（海老原美夫）。

**編 集 後 記**

2月号を開いた途端、「あ！またやっちゃった」。2ページ「※印の場所で」の波形アンダーラインは間違いです。校正の時に、地図に※印がなかったものですから、「この文の※印を地図に入れてください」と指示した赤線を、印刷所の方ではアンダーラインを入れるように指示されたものとして、書き入れてしまったわけです。1度の校正のやりとりできちんと意思を伝えることの難しさ。ううむ、校正おそるべし。（海老原）

|                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 『しらこぼと』1996年3月号（第143号）          | 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）           |
| 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部       | TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 |
| 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 | 郵便振替 00190-3-121130               |
| 印刷 関東図書株式会社                     | （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）          |
| 再生紙使用                           |                                   |